

ニチレイらしい社会貢献の推進

2007年度社会貢献の方針と活動内容

ニチレイグループでは、社会貢献活動に関する情報共有・推進を目的として、2006年4月に社会貢献分科会を発足させました。活動は各事業会社と労働組合の代表者および事務局である(株)ニチレイ人事総務部により運営されています。2007年度からは、「ニチレイふれあい基金[※]」の理事会業務を兼務する体制に移行し、グループ共通で実施する社会貢献活動の内容検討から寄付先の決定まで一括して社会貢献分科会で扱っています。また、各事業会社ごとにも社会貢献推進担当が選任され、活動しています。

2007年度の社会貢献分科会では、「ニチレイふれあい基金」の寄付先団体の活動内容報告を協議・検討し、また、日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋運動への協力についても検討を行いました。

ニチレイグループは、NPO法人「難病児の夢と親子のハートフル・ホリデー IN TOKYO」の活動趣旨(難病児の夢の実現と家族の楽しい思い出づくりの支援)に賛同し、東京都大田区にあるスコレ雪ヶ谷研修センターを宿泊施設として貸与しています。

[※]「ニチレイふれあい基金」:当基金は、1992年に設立され、従業員の賛同金と会社の寄付を基に、社会福祉活動の支援や自然保護・環境保全・文化芸術活動への援助などを行っています。

ニチレイグループ社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。

わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。

わたしたちは、この考えに基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組みます。

食や物流に関する教育

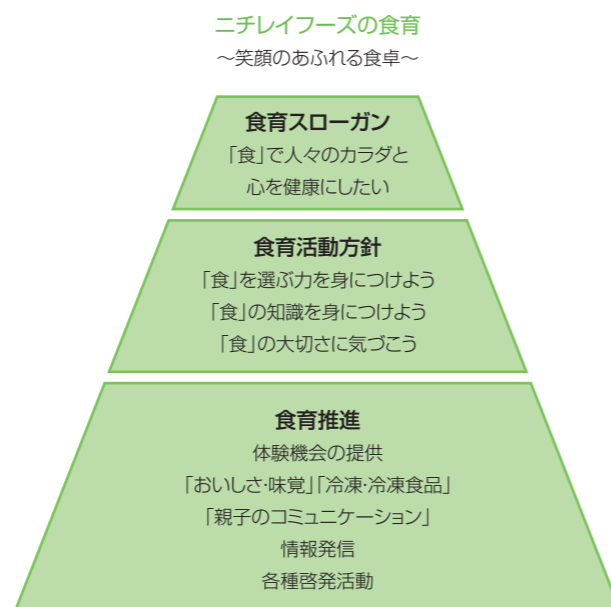
食育活動

食育基本法では、食育を、生きるうえでの基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることとしています。

ニチレイグループは「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」企業理念のもと、「食」に携わる事業者として、安全・安心な商品をお届けすることはもとより、「食」の楽しさ・すばらしさを広く生活者の皆様と一緒に学び、考え、実践する食育活動に積極的に取り組んでいます。

特に、ニチレイフーズでは、「笑顔のあふれる食卓」をめざして「食で人々のカラダと心を健康にしたい」をスローガンに、食に関するさまざまな体験機会を皆様に提供することを中心とした食育活動に力を入れています。

ニチレイフーズの食育方針



「食育 出張授業」の実施

ニチレイフーズは、2008年2月12日、仙台市大野田幼稚園にて「出張授業」を実施しました。

ニチレイフーズがまとめたお弁当に関する調査結果の発表と説明、親子・夫婦間のお弁当コミュニケーションについて生活者の皆様や園長先生とのディスカッションのほか、味覚の科学に関する解説を行い、参加者の皆様に実際に味覚の仕組みを体験していただきました。



大野田幼稚園での出張授業

「出張授業」参加者の感想

- 子供の未来を考え、いろいろなものを楽しく食べさせてあげようと思いました。(女性/38歳)
- あらためて食べることは育ち盛りの子供には大切なことなんだと痛感しました。(女性/34歳)
- 少しずつ手づくり弁当の回数を増やして子供に思いを伝えたい。(女性/37歳)

TOPICS

「地域に根ざした食育コンクール」特別賞 審査委員会奨励賞受賞

ニチレイフーズは、これまで全国の工場や支社で実施してきた食育活動を評価され、「地域に根ざした食育コンクール」(農林水産省・提唱、地域に根ざした食育推進協議会、(社)農山漁村文化協会・主催)にて、特別賞 審査委員会奨励賞を受賞しました。

2008年1月26日、東京国際フォーラムで行われた表彰式、および発表展示会では、①原料



冷凍食品工場見学



味覚体験の様子

生産農家での収穫体験や野菜の育つ過程をブログ形式で紹介した「はぐねっと」の活動、②冷凍食品工場見学や冷凍倉庫体験を中心とした活動、③料理教室や食品の冷凍実験を中心とした活動、④工場での生産品の試食や味覚の体験を中心とした活動、⑤食品を味わい、味とおいの関係やおいしさ・食品の特徴を言葉で表現する活動について発表しました。

物流に関する教育

人々の生活と深い関わりをもつ食品物流の認知度向上に向けての活動を進めています。その一環として、小・中・高校生の社会科見学や教育関係者への施設見学機会の提供、各種大学での寄付講座開講など、積極的な社会貢献活動を展開しています。

社会科見学の実施

(株)ロジスティクス・ネットワーク入間物流センターでは、入間市の要請により地域の小学3年生が実施する校外学習に協力し、会社訪問の受け入れを行っています。



狭山小学校の生徒の皆さん

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海は、南陽中学校(名古屋市港区)の総合学習において「環境問題に積極的に取り組んでいる企業」として選ばれ、中学生の会社訪問を受けました。



南陽中学校からの会社訪問



大学への寄付講座

2007年12月13日、横浜国立大学経営学部にて「食品物流」をテーマにした講義を行いました。



横浜国立大学での講義風景

地域社会貢献

フードバンクへの寄付

ニチレイフーズはNPO法人セカンドハーベストジャパン※によるフードバンク活動に賛同し、日本企業としていち早く名乗りをあげ2005年7月より参画しています。輸入時に外箱が変形した商品など品質に問題のない冷凍食品を無償で提供、ニチレイロジグループの協力により低温輸送でセカンドハーベストジャパンの認定する各施設に直接お届けしています。

この取り組みは、現在では約190社以上の企業が協賛するまでに広がっています。



協賛企業による会議の様子

※「セカンドハーベストジャパン」：日本初のフードバンク。2002年7月に法人格を取得。安全性が保証された食料を、生活困窮者に供給する支援活動を行っています。

VOICE

長谷川 孝行

(株)ニチレイフーズ 食品物流部 物流開発グループ マネージャー



フードバンク活動の参画企業は従来外資系中心でしたが、当社が名乗りをあげて活動を始めてから3年になります。ニチレイロジグループの協力により低温輸送が必要な冷凍食品を安定的に寄付しており、グループの強みを改めて認識しました。今では日本の協賛企業のリーダー的な立場を築いており、この活動を誇りに思います。

スポーツへの支援

ニチレイグループは、「食」とともに健康を支える大きな要素であるスポーツを通じて「健康」を支援するさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

<http://www.nichirei.co.jp/sports/index.html>

環境保全活動

いのち 生命の森プロジェクト

インドネシア・タラカン市が実施するマングローブ林拡大プロジェクト(生命の森プロジェクト)は、マングローブ林に生息する動物や環境の保護などを目的としたものです。

ニチレイフレッシュは、10年来タラカン市のパッカーよりの買い付けを行っていることから、地域貢献の一環として、また食材調達における持続可能性確保への取り組みとして、このプロジェクトの活動を支援しています。

現在まで植林したマングローブの数は約5万本。インドネシアWWF※・タラカン市・ニチレイフレッシュが共同で設立した基金を通じ、2009年にはその数を約10万本へ拡大する予定です。

※「WWF」：1961年に、絶滅の危機にある野生生物の保護を目的としてスイスで設立され、現在は地球全体の自然環境の保全に幅広く取り組む世界最大の自然保護NGO(非政府組織)です。



マングローブ林の自然環境を保護することを目的とした「生命の森プロジェクト」

ニチレイフーズ白石工場の環境授業

(株)ニチレイフーズ白石工場は、「白石蔵王エコフォーラム」(白石蔵王地区の企業8社で構成)に2007年5月より参加し、環境活動や地域社会貢献活動を実施しています。

その活動の一環として、2007年度は合計3回の環境出前授業を行いました。写真は、2007年10月3日、地元の白石第一小学校、4年生84名を対象に、3名の従業員が行った地球温暖化の授業風景です。

40分間の授業の間、子供たちは真剣に耳を傾け、たくさんの質問をしてくれました。今後もこの活動を継続していきます。



(株)ニチレイフーズ白石工場の環境授業風景